



ブラジリアの風

Vento de Brasília

～主よ、助けてください！～

ブラジル宣教のための尊いお祈りとご支援を心から感謝申し上げます。7月は冬休みを利用して初めてサンパウロを訪ねました。昨年与えられた7人乗りの自動車で、片道1000km、往復2600kmの旅を経験しました。サンパウロ州のサントスまで南下し、ブラジルで初めての海を体験しました。多くの日本人移民が最初に降り立ったというサントス港を眺めながら、しばし感慨にふけりました。実際、ブラジリアの何人かの一世代（移民した日本人）の方々に向うと、サントス港での思い出や移住当初の生活を話してくださいました。ブラジル到着後1ヶ月で後輩が自死したという辛い思い出話もありました。また、サントスから何日もかけてブラジル最南端のリオグランデドスール州に移動し、そこで寒さと貧しさの極みを味わったという体験談も。一世代の多くは、ブラジル生活50年以上という人が増え70代から90代の方々ばかりです。仕事を引退した方もいれば、現役で野菜作りなどに励んでおられる方もいます。訪問や俳句会で出会う一世代の方々の心に福音の奥義が伝わるように、御霊の助けを仰ぎながら、自作の福音レターを配り続けています。

8月の「きら輝ら会」（高齢者の集い）には25名ほどの高齢者が集まり、私は「人生の嵐」についてお話ししました。突然の病気や事故、自然災害、また仕事や家庭、夫婦や親子関係の悩みなど、人生の嵐は次々にやってきます。その中には「罪の嵐」とも言えるような人の心の醜さ、汚さを知らされる場合もあります。「主よ、助けてください。溺れて死にそうです！」と叫ぶ弟子たちに、主イエスは起き上がり、風を叱りつけ、海を凪にされました。実は、この

数ヶ月、私は一つの「嵐」に遭い、溺れかけていました。「きら輝ら会」のメッセージを準備しながら、私は自分の心の中にうごめく罪に気づきました。7年目の宣教生活の中で、精神的、霊的な疲労が溜まっていたことは事実ですが、そこには少なからず自分の罪が混在していたことが分かったのです。そして、背後には宣教の前進を妨げようとするサタンの巧妙な力が働いていたようにも感じました。精神的な行き詰まりを感じる中で、私の心は悲鳴を上げ「主よ、助けてください。溺れそうです。この罪の嵐から私を救ってください」と祈っていました。主は不思議と嵐を沈め、私の心の罪を赦し、平安と新たな道を備えてくださいました。どうか、引き続きブラジル宣教のため、またこの弱いしもべと家族のためにお祈りください。



「福音の奥義を大胆に知らせることができるよう、祈ってください」（エペソ6:19）

2019.8.15

終戦記念日を覚えて
浜田献、陽子

献金報告と感謝

献金者一覧(2019年5-6月)

相馬礼太福音教会、新船橋礼太教会、波崎礼太教会、石神井福音教会、松戸福音教会、浜田良夫、くずは聖書教会、蛭池聖書教会、安城中央礼太教会、総和礼太教会、播磨礼太教会、鞭木由行、名護聖書教会（敬称略）

117,861円 (5-6月合計)

累計 506,512円

【2019年目標:160万円】